

## ☆JASV 平成 24 年度事業計画

### 1. 口蹄疫に関わる事業

昨年に引き続き 2010 年宮崎での口蹄疫の経験を生かさないために、今期も事業計画の中に業界に関わる人たちが参集し、今後の防疫対策について話し合う機会を作る。

### 2. 病性鑑定事業

麻布大学 PCC の協力のもとで実施している病性鑑定事業を今年度も引き続き実施する。正会員以外の検体受付や検体受付可能数の問題など新たな課題も解決したい。また今年度も第 6 回豚病症例検討会（12 月 21 日予定）を麻布大学で実施する。

### 3. ベンチマーキング事業

JASV 設立当時の課題であるベンチマーク事業を今年は、以前より一層充実したものとする。動物衛生研究所との共同研究として進める中で、分析ツールとして養豚獣医師が活用できるものにしていく。日本の養豚生産データを一元化し、生産性向上に寄与できるようにしたい。日本養豚事業協同組合（豚事協）とのベンチマーク事業も充実させ、利用者を拡大していきたい。

### 4. 機関誌の発行

11 月および 5 月の年 2 回、機関誌を発行する。

### 5. 農場 HACCP 認証機関としての取り組み

農場 HACCP 導入は今後養豚場にとって必須なものになってくると思われる。生産現場を熟知した養豚管理獣医師がそこに関与していくことは重要な責務である。昨年より JASV は農場 HACCP 関連の事業を積極的に行ってきた。本年春には農場 HACCP 認証の第一号が発表されたこともあり、養豚場では認証への意欲が増している。今期は JASV が認証機関としての認定を受けるための取り組みを本格的に始める。

### 6. 国民に対する養豚獣医師医療等に関する情報の提供

一般消費者に対する情報提供に加え養豚関係者、さらには養豚獣医師をめざす獣医師や学生への情報提供の質を向上させるために、大学での普及活動や獣医師会などの市民公開講座などにも積極的に参加していく。賛助会員のホームページともリンクさせて広く養豚獣医師の活動を伝える努力をしていく。

### 7. 養豚 3 団体の合同研究集会の開催に関する事業

「APVS2009 つくば」を記念して始めた養豚 3 団体（日本豚病研究会、日本豚病臨床研究会、日本養豚開業獣医師協会）合同の研究集会の開催を、今年度も 10 月 26 日に東京で開催する。“最先端の研究現場から臨床現場まで”をスローガンに、養豚業界で活動する獣医師、技術者が一同に会し、日頃の活動や研究成果を発表する。

### 8. 宮崎県養豚初任者研修

みやざき養豚生産者協議会、宮崎大学農学部獣医学科の共催を得て開催している宮崎県

養豚初任者研修を引き続き実施する。今期は2013年2月15日～17日に宮崎大学で開催する予定。

## 9. その他本法人の目的を達成するために必要な事業

### 1) 養豚獣医療の認知と普及のため関連団体への委員派遣と事業協力

#### ◎社団法人中央畜産会

「農場 HACCP 認証協議会」

「獣医療提供体制整備推進総合対策事業」の中で、家畜衛生対策推進協議会が行う臨床実習等支援事業及び衛生管理獣医療技術普及事業業

「衛生管理獣医療技術普及事業（薬剤耐性）の事業推進委員会」

#### ◎公益社団法人日本獣医師会

「獣医療提供体制整備推進協議会」

「管理獣医師の実践的な知識・高度技術を習得するための実地研修」

### 2) 農林水産省との意見交換会

農林水産省との意見交換会を年2回開催する。今期は8月23日と来年1月31日に開催予定。

### 3) 賛助会員との個別懇談会

賛助会員と JASV 正会員との個別懇談会を、今期も実施する。昨年同様9月7日に九州で実施するように調整中。年明けは2月1日と2月28日、都内で開催予定。

### 4) 獣医学部学生の実習受け入れおよび大学への講師派遣

獣医学部学生の実習に関しては従来から行ってきたが、本年度も引き続き積極的な受け入れを行う。また、「産業動物獣医師就業研修事業」（中央畜産会と日本獣医師会）の豚部門の受け入れ団体として協力する。また各獣医系大学から講師依頼があった場合は、積極的にその依頼にこたえるものとする。

### 5) 委員会活動

#### ①学術研究に関する委員会

JASV が主催するセミナーおよび他団体との共催または後援するセミナーに関して積極的に推進する。衛生セミナー（2013年2月27日予定）、動物衛生研究所施設見学を含めた勉強会（2012年8月24日予定）、養豚3団体の合同研究集会（2012年10月26日開催決定）、麻布大学 PCC 症例検討会（12月21日予定）。

2015年に日本での開催が決まった「第7回国際豚新興病・再興病学会」（略称：京都豚新興病学会）の後援と実行委員会への委員派遣を行う。

#### ②種豚の衛生に関する委員会

JPPA 種豚部会および衛生部会との連携。種豚の衛生レベル向上のため関係者との良好なコミュニケーションを構築する。

#### ③農場 HACCP とアニマルウェルフェアに関する委員会

農場 HACCP 認証事業を独立した事業とする。アニマルウェルフェアについては海外の動

向を注視しながら日本型アニマルウェルフェア（JASV 版）を構築していく。

④養豚獣医療の将来を考える委員会

養豚管理獣医師の将来のビジネスモデルを考える。獣医師の適正獣医師規範の作成、養豚獣医師の慎重かつ適正な抗菌性薬剤の使用などについて取り組む。

⑤新規資材開発委員会

今期あらたに設置する委員会で、JASV で新規資材の開発を行う。そして開発された新資材の販売を事業化する。SRS 石灰は徐々に販売実績をあげている。